



ピクニック2023 開催!

4月2日(日)に4年ぶりとなる日本商工会・日本人会共催のピクニックをOil Ranchにて開催致しました。当日は天候にも恵まれ、久しぶりの開催にもかかわらず約1,000名が参加、大盛況となりました。参加者の皆さん、ボランティアの皆さん、ありがとうございました。ご意見・ご感想は[こちらから](#)。

開会式では村林総領事にご挨拶いただき、ピクニックがスタート致しました。各種イベントも大変盛り上がりました。サックレースでは年齢問わず多数が参加、また子供さんはヨーヨー釣り、キッズホッパー、ペッティングズー、ヘイライド、トレインライドなど多くのアトラクションを楽しんでいました。今年はBBQランチやポップコーン、かき氷などを会場が用意しましたが、みなさん笑顔で楽しく食事をされていました。

閉会式では、商工会早坂会長、日本人会武智会長のご挨拶、サックレースの表彰式を行いました。最後のメインイベントのラッフル抽選においては、日本往復航空券2枚を含む多数の豪華賞品が用意され、緊張感漂う中、抽選番号が読み上げられる度に歓声と拍手が湧き、会場は参加者の興奮と熱気で溢れていました。後片付けも含め、大きな怪我、事故等なく無事ピクニックを締めくくることができました。

最後になりますが、商工会幹事チーム、日本人会の皆様、準備、運営をお手伝い下さったボランティアの皆様、そして協賛金、ラッフル抽選の賞品をご提供いただいた企業、団体の皆様など、多くの方々から多大なるご協力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
(文化委員長 鈴木一 / クラレアメリカ)



村林総領事



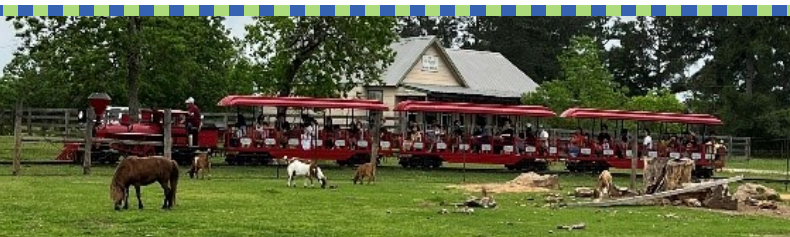
早坂商工会会長



武智日本人会会長



本年もANA様とUNITED様から日本行き往復航空券をご提供頂き、ありがとうございました。



テキサスの牧場ならではのサックレース。小学生から大人まで、各カテゴリーのレースで白熱戦が繰り広げられました。初めて挑戦した方もお楽しみいただけたでしょうか。企業対抗戦では遊びとは思えないかなりの気合の入った柔軟体操、無我夢中でびよんびよんと跳ねる本気ぶりに、観客のみさんの応援もかなり盛り上がりました。お仕事で忙しい日々にはお目にかかれない光景でした。優勝者の皆さま、おめでとうございます！



ボランティアの皆さん、ありがとうございました！



幹事団：クラレ、北米三菱商事会社



北米三菱商事のチームパワー炸裂 会社・団体対抗戦で見事に優勝！



ヨーヨー釣り



ジャパンフェスティバルのキッズ縁日ではおなじみのヨーヨー釣りが、今回初めてピクニックに導入されました。過去のジャパンフェスティバルの大ベテラン担当者や飛び入りで手伝ってくださったボランティアにも助けられ、500個のヨーヨーが作成されました。カラフルなヨーヨーを追いかけている子供たちのキラキラした笑顔、そして懐かしい日本の縁日を思い出しているのか、楽しそうにヨーヨー釣りに没頭している大人の方もいて、とても印象的でした。



ピクニック2023 ラッフル抽選会

ピクニックのハイライトは、ラッフル抽選会です。くじが引かれるたびに、本部前に集った会衆の頭の中ではドラムロールが鳴り響き、当選番号が読み上げられるまで、ドキドキワクワクしながら息を呑む、の繰り返しです。「あたりか」「はずれか」、これぞ運命の分かれ道！抽選の結果を聞き逃さないようにと、どんどん前方に押し寄せてくる参加者の鋭い視線を浴びて司会者たちもたじたじでした。2回番号を読み上げても当選者が現れない場合は、再チャンスが巡ってくる喜びを隠さず、皆でカウントダウンを大合唱！前列を陣取って目を輝かせたり、お祈りしている子供達の姿がなんとも微笑ましく感じられます。コロナで失われた3年の空白を取り戻す、楽しい抽選会となりました。



Oil Ranch でのアクティビティー



Picnic Schedule at Oil Ranch

Time	Event
12:00	開門
13:00-14:00	BBQ ランチ
12:00-16:00	Oil Ranchアクティビティー
14:00-15:00	ラッフル事前抽選者当選発表 & 賞品受け渡し
13:30-15:30	ヨーヨー釣り
14:00-15:00	サックレース
15:30-17:00	ラッフル抽選会/閉会式



“会場のアトラクションが非常に充実しており、さらにはBBQ もご準備いただいたので、手ぶらで参加し、気軽に楽しめました。”

Oil Ranch でのアクティビティー 続き



“3度目のピクニックの参加となったのですが、今回が家族一同、一番楽しめました。”



“友達と普段できない経験が出来て、最高に楽しかったです。子供は体力の限界まで遊びつくしました。来年はより参加者増に貢献できるように、社内で今年のピクニックの感想も十分に共有しておきます。”



2023年ピクニック ~日本人会~



2019年開催以降、コロナ禍で中止となっていたヒューストン日本商工会、グレーターヒューストン日本人会共催のピクニックが、4月2日(日) Oil Ranchにて4年ぶりに実施されました。当日の天候が心配されましたが、何とか持ち堪え、日焼けの心配なしの曇り空で、外で過ごすのにはちょうど良い気温の日でした。

総勢約千名を数えた今回のピクニックは、20代から50代の家族会員が中心の商工会会員の参加者に対し、日本人会からは、3ヶ月の赤ちゃんから101歳の愛子さんまでと、より幅広い年齢層の皆様が参加されました。「ヒューストンエリアには、こんなに日本人がいたのか」と感動さえ覚えるほど、この日のOil Ranchは、日本人で埋め尽くされました。

12時45分になると、まず鈴木ピクニック委員長から開会の挨拶があり、総領事の祝辞が続きました。そして会場の施設についての説明のあとは、いよいよお待ちかねテキサスBBQランチの開始です。

2019年までは、各参加グループごとに食事を用意する形でしたので、日本人会では焼き肉、たこ焼き、焼きそば、綿あめ等がピクニックの定番料理でしたが、今年は会場が変わったため、料理・飲み物はOil Ranchで用意されたものでした。通常は顔を合わせる事のない方々が、二か所の配膳場所に老若男女問わず仲良く列を作りました。「同じ釜の飯を食った仲間」という言葉もあります。同じ場所で同じものを食したことで、日本人コミュニティの結束がより固くなったことでしょう。



食事の後は、パットゴルフ大会、当日のメインイベントであるサックレース、ポニーの乗馬体験やウサギやヤギのペッティングゾーン、ミニトレイン等多くのアトラクションで、テキサスの牧場のひと時を楽しみました。また、ジャパンフェスティバルでもおなじみの「ヨーヨー釣り」も用意され、多くの子供たちがちょっとレトロな夏祭りの雰囲気を楽しんでいました。普段はなかなか会えない人たちと心行くまで談笑できたのも、思い出の一コマになりました。



親子でたっぷり牧場体験をしたあとは、恒例のピクニックのハイライトであるラッフル抽選会です。本年も、日本行往復航空券、有名レストランのギフト券やTiffany製品など、豪華賞品がたくさん用意されました。全員がメインパビリオン前に赤のラッフルチケットを握りしめて大集合。大人も子供もドキドキハラハラしながら、耳をダンボにして自分の番号が読み上げられるのを待ち、ため息や歓喜の音が響き渡りました。

閉会式では早坂商工会会長が「来年も盛り上げて行きます」と抱負を述べられ、武智日本人会長からはヒューストンを去られる鈴木ピクニック委員長へのお礼とヒューストンBBQ協会設立の話がありました。

これからも商工会と日本人会の協力でピクニックが更に充実したものになっていく事を期待しています。



ソフトボール大会 優勝は住友ダッシュ!



▲準優勝トロフィー授与 Izakaya WA



▲優勝トロフィー授与 住友ダッシュ

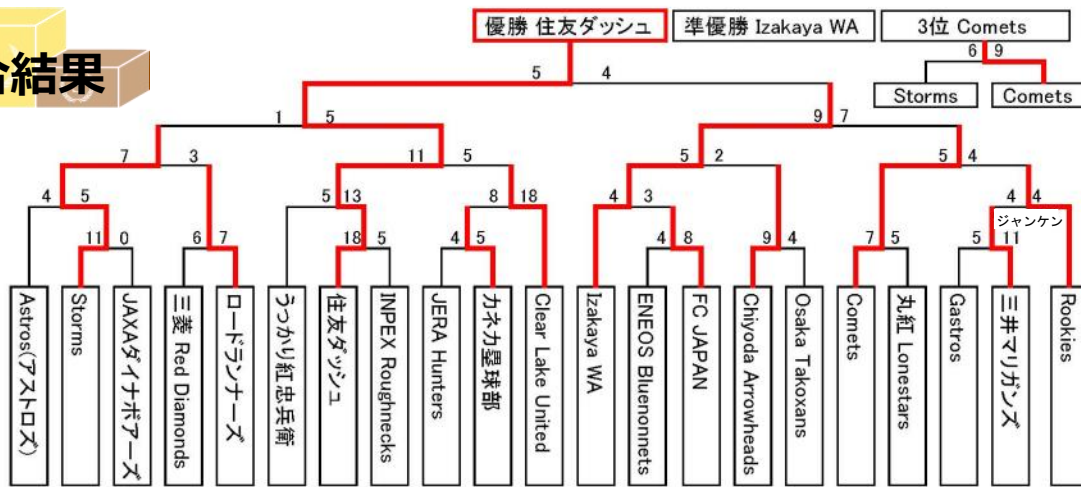


▲3位トロフィー授与 Comets



▲「決勝戦 住友ダッシュ対Izakaya WA」

試合結果



ヒューストン日本商工会主催のソフトボール大会が4月23日(日)、Shadow Creek Ranchにて開催されました。雨天中止も心配されましたが、大会事務局の尽力もあり何とか開催にこぎつけ、WBCに勝るとも劣らない白熱した試合が展開されました。

今大会の特徴は何と言っても接戦の多さ。21試合中11試合が3点差以内の僅差の試合となり、手に汗握る展開となりました。中でもRookies対三井マリガンズは60分経過時点では4-4の同点で勝負がつかず、ジャンケンによる勝敗決着となりました。各チームが良く準備・練習して大会を迎え、いずれも実力仲の試合となりました。

ぬかるんだグラウンドコンディションでも安定した力を発揮して優勝を掴んだのが住友ダッシュ。昨年はAstros(優勝チーム)に60分経過時点で同

点でジャンケンの末敗退した悔しさをバネに勝ち上がりました。決勝戦では昨年3位だった強豪Izakaya Waを相手に5-4の接戦を制して優勝杯を手に入れました。

そして忘れてはならないのが大会を実現させた裏方の方々。雨天中止が危ぶまれる中で運営に当たった大会事務局、寒さの中で救護班ボランティアとして日本テキサス医学振興会(JMTX)を通してお手伝いに来て下さった坂本俊則さん(バイラー整形外科スポーツ医学PA)とギルプレス忍先生(メモリアルハーマン病棟内科医)。彼らのおかげで大きな負傷者も無く大会を成功裏に終えることが出来ました。





優勝チーム

住友ダッシュ



興奮の中で幕を閉じた今春のWBCに触発され、今年は何年以上に各チームのソフトボール熱も高まっていたことだろう。一方で我が住友ダッシュはWBC熱に今一つ乗り切れずにいた。昨年は準々決勝にてジャンケンで敗戦。「今年こそは」という意気込みでスタートするも、練習試合では拙攻、与四球・守乱続き。運よく3、4月の辞令で野球経験者が加入するが状況変わらず、4月頭の練習試合で情けないほどの大敗。

然しながら、この大敗が起爆剤となった。平日バッティングセンター練、投手は自宅での投球練習、打順組み替え、練習試合後の居残り練習…。個々人の小さな努力が実を結び、直前の練習試合で徐々に調子が上向きに。最後の最後によくチームとして形になり、一体感が醸成された。

迎えた本番、初戦はINPEX Roughnecks。初回、相手の優れた選球眼・そつのない攻撃に苦しめられ、いきなり3失点。厳しい立ち上がりとなったが、この窮地を救ったのが2番手・佐藤。安定したピッチングで失点を最小限に抑える。打線も佐藤の好投に乗じるがごとく繋がりを見せて逆転勝利。

2回戦はうっかり紅忠兵衛。シーソーゲームの展開となるが、先発・後藤の粘り強いピッチング、集中力を切らさない攻撃により13-5で勝利。打線で光ったのは木村。三振のリスクを厭わず、好球が来るまで2ストライクまで待球。好球必打で初戦、2回戦とも全打席出塁。会社ではリスクマネジメント部に所属するが、試合ではハイリスク・ハイリターン姿勢を体現。

準々決勝はClear Lake United。緊迫した試合展開を打開したのは左口。守備の間をつくりライト越えランニング3ランホームランもあり11-5で勝利。「野球よりボールも大きいし余裕でしょ！」と大口を叩くも、大振りでも打が続いていた経験者赴任組に手本を見せつける。

準決勝は大会屈指の強豪Storms。先制を許し、攻撃も焦りからの拙攻で得点できず0-1で迎えた6回裏、攻撃前には円陣が組まれ、主将・島津から逆方向への低く・強い打球を意識、との指示が飛ぶ。その指示通り、市川、左口、桐畑が連続出塁、ラストバッター福本が執念で転がし同点。最後は島津の、自らの指示とは真逆のレフト越えツーベースが飛び出し逆転。投げては先発・飯島の好投で5-1で勝利し決勝進出。

迎えた決勝の相手は、毎年安定感あるチーム力を誇る強豪Izakaya Wa。破壊力のある打線、ヒットをアウトにする華麗な守備に苦しめられ、6回表を終えた時点で2-4と2点ビハインド。6回裏の前には準決勝同様に円陣が組まれ狙いを確認。島津、飯島が出塁し、東の強襲ヒットで1点差。1週間後には日本帰国の4番福島が意地の同点タイムリー。その後ト部の勝ち越し併殺打で5-4と逆転し、そのまま試合終了。グラウンド、ベンチ、そして駆け付けた応援メンバーが一体と



なって悲願の優勝を達成した。

■メンバー紹介■

ピッチャー: シニア杉井、佐藤の2枚看板に、準決勝で好投した飯島、2回戦先発の後藤、それ以外にも藤、武蔵が控える。2枚看板両名はシニアでありながら無尽蔵のスタミナを誇り、スローピッチが故に打たれても「俺のせいじゃない」と言い放つ強靱なメンタルを併せ持つ。

キャッチャー: 陰の主砲である木村。テニスから本競技にはまったソフトボール女子。当日は誰よりもボールを投げた鉄腕。

ファースト: 元気印のト部。本番2週間前に加入(赴任)した最後のピース。キャッチャー出身ゆえの安定したキャッチングと、推進力ある(自身の中で)走塁を誇る。

セカンド: 誰よりも熱い想いと冷静さを持った東。右方向への打撃でチームの窮地を度々救った不動の3番。その熱さゆえに、息子への英才教育にも余念がない。

サード: 主砲 福島。沈着冷静なオフィスでの姿とは一変、熱い姿勢、堅実な守備、勝負強い打撃でチームを牽引。帰任1週間前の本大会で有終の美を飾る。

ショート: 新戦力の矢野。本番3週間前の肉離れで出場が危ぶまれたが、当日は相変わらずの強肩、シユアな打撃で貢献。来年は更なる覚醒を期待。

レフト: ムードメーカー岩下とシニア市川の両輪。岩下は決勝での補殺(レフトゴロ)はじめ「守備からの住友ダッシュ」を体現、攻撃姿勢をチームに植え付ける。市川は2回戦での好守と迫力ある走塁、準決勝での反撃の狼煙を上げるヒットと、重要局面でのプレーが光った。

レフトセンター: キャプテン島津。国内外からのプレッシャーに、優勝報告ができホッとする。1番への打順変更もあり、大会本番では運動量の限界を超えてしまい、準決勝で両足が攣る。

ライトセンター: 準々決勝勝利の立役者 左口。出張続きだったが、前日マッサージによる万全の準備もあり、ここぞの場面での得意の右打ち、堅実な守備がチームを救った。

ライト/ローバー: キーパーラーの福本。幹部陣からの無茶振りで大会直前に左打ちに変更。ひたむき姿勢で全試合を戦い抜き、準決勝では同点を演出。佐藤(妻)も1、2回戦はテニスで鍛えた打棒でチームに貢献。

DH: 大砲 桐畑。いかつい体躯にもかかわらず戦略的にSサイズユニを身に纏い、相手チームへプレッシャーを掛ける。2番 飯島もメンバー構成に応じDHに入り上位打線の一角を担う。

それ以外にも、チームの鍵である走塁の陰の立役者 藤、加藤、淡々とセカンドもこなす武蔵、声出し番長の村井、監督 山口と息子 将喜も盛り上げ役としてチームを牽引。出張不在となった本田、川原の熱い魂もチームを後押しした。

改めてこの場を借りまして、対戦させて頂きましたチームの皆様、悪天候の中で本大会を滞りなく運営頂いた幹事の皆様に心より御礼申し上げます。有難うございました。(島津、ト部、桐畑)



▲「出張不在となった本田もLINEビデオ通話で優勝の喜びを分かち合う(左上)」



準優勝チーム

Izakaya WA



昨年3位だったため久しぶりのシードでの大会。試合前には早めに来て体を温めることだけを意識して集合したのですが、あいにくの雨。その上寒い。1試合目は足のあるFC Japanに対し初回3点を取り、このまま勝ち逃げかと安易な気持ちで迎えた4回に同点に追いつかれてしまう。そこで円陣を組んでムードを切り替え、何とかその裏1点を取り逆転し、3-4とギリギリの勝利。この時、本番に打てない和チームが頭によぎり、野球経験者を上位打線に揃えてChiyoda Arrowheadsとの対戦…。あれこれ、寒さのせいかな雨のせいかな打線も湿りがち。その後7本のヒットで効率よく5点を取って準決勝進出。

このままあと2試合打ち勝つと決め、打順も好調打者の打順を上げて挑

んだ宿敵Comets戦。十数年前からCometsとは練習試合を含め良いライバルであり、お互い知った選手がいるのでやりやすさもある反面、やりにくさもあるチーム。それが得点にも表れ、初回4点取ってもすぐ追いつかれ、3回に1点先取するが裏に逆転されてしまう。見る方もやってる方もハラハラする試合展開。いつもならここで、ずるずると負けてしまうのですが、今年の和チームの優勝に対する執念はより強かった。7回までやりきり2点差で何とかCometsを下しました。

久しぶりの決勝戦。強豪住友ダッシュ相手にコツコツと点を取り4-2と2点リードで迎えた6回裏。浮足立ってしまったのか、優勝がちらついたのか、住友ダッシュがノーアウト満塁とする。相手チームの勢いと気迫がすごい。結果、時間切れサヨナラ負け。時間をうまく使って効率よく得点した住友ダッシュに完敗です。来年にはもう一度決勝の舞台に上がって一番大きいトロフィーを掲げたいです。

今年は雨の大会開催となった中、事故や大けがの無いように最後まで細心の注意を払っていただき、関係者の方々幹事会社の東京ガスの皆様本当にありがとうございました。(Izakaya WA監督 浅野)



3位チーム

COMETS



はじめに何ヶ月も前から本大会を開催するにあたりご尽力いただいた大会関係者皆様へ、Cometsメンバーを代表してお礼申し上げます。

今年もヒューストンの短い冬から毎週のように大会前日までキャップの号令の下で優勝を目指し、全員で辛くもあり楽しい練習を積み重ねてきました。もっとも辛かった練習と云えばCometsの名物である準備運動“アップ”です。私を含めて昨年の大会から運動をしていないメンバーが多く、ボールを使つての練習開始までに既に息切れ、筋肉の張り、筋の痛みなどありましたが、その甲斐あってかメンバー全員が大きな怪我をすることなく、大会本番を迎えることができました。

Cometsメンバーはチーム設立当初より、精神的に脆いチームでした。しかし初戦の丸紅Lonestars戦の初回では、かの2023年WBCで優勝した日本代表チームの先頭打者コンビとして大活躍したヌートバー選手、近藤選手のような、我らがComets・スピードスターの先頭打者コンビが見事に活躍したことで、いつもは貧弱Comets打線に火がつき得点を重ねた結果、なんとか勝ち切りベスト8へと進出したのです。この勝利で調子付いたCometsは、Rookies戦も接戦の末に辛くも勝利しベスト4へと駒を進めるのでした。ここまでの2戦を僅差で勝利してきたCometsメンバーは平均年齢30代後半ということもあり、既に満身創痕の状態。ですが、厳しい練習を乗り切ったメンバーは気持ちだけは負けていませんでした。どんどん勝ち進むにつれ、メンバーはもちろんのこと応援していただいた方々からの声援がうなりのように大きくなり、また一体感が感じられ、“これはもしかすると優勝できるのでは”という雰囲気。しかしながら、準決勝のIzakaya WA戦では最終回に精神、体力的にも疲れ果て、勝利をつかみ取ることは残念ながらできませんでした。

STORMSとの3位決定戦では、相手の強力打線に一時は逆転を許すも、今大会が最後になる、そして最後になるかもしれないメンバーがいる中“最終戦を勝利で飾り送り出したい”その強い思いが再びメンバー全員の闘志に火を付け、持てる気力を振り絞り大逆転！初戦で負けたらどうしようと思っていたCometsが見事に3位を獲得したのでした。辛いアップや練習を毎週したこともあり、全員で勝ち取った3位という好成績は喜びもひとしおでした。来年こそは優勝だ。GO COMETS!! (Comets代表 樽谷)



愛すべきテキサス音楽

<その2>

先月号に引き続き、テキサス音楽のお話です。今月号では、テキサスメックス音楽、テキサス・ブルースに引き続き、カントリー&ウェスタン音楽、ジャズ音楽、ロック音楽のご紹介です。お楽しみください。(編集部)

カントリー&ウェスタン音楽

テキサスのカントリー・ミュージックも、非常に重要な役割を果たしています。ヒルビリー・ミュージックは後にカントリー&ウェスタンに統合されますが、1930年代に、Bob Wills & The Texas Cowboysが登場します。彼らはドラマーやギタリストにアドリブ・ソロを競わせながらウェスタン・スウィングと呼ばれる洗練されたダンス音楽を作りだし、後のロカビリーに大きな影響を及ぼしています。

1970年代になると、カントリー・ミュージックのレジェンドともいえるAbbot出身のWillie NelsonとHouston出身のKenny Rogersが登場します。Willie Nelsonが、盟友であり同じテキサスのLittlefield出身のWaylon Jenningsと共に、カントリーの聖地ナッシュビルで作られる保守的で産業的なサウンドに迎合せず、独自にカントリー・ミュージックをやるという動きで、ロックやフォークといった新しい音楽を取り入れつつ、新たなスタイルとなるアウトロー・カントリーと呼ばれるスタイルを作り上げ人気を博します。

毎年3月に開催されるロデオでもカントリーの出演者が一番多くいることから、テキサスで最も愛されている音楽ジャンルともいえましよう。

ジャズ音楽

筆者の敬愛するOrnette Colemanも、実はテキサスの出身になります。Fort Worth出身のOrnette ColemanはNew Orleansでテナーサックス奏者として音楽活動を開始しますが、Baton Rougeでの公演後に暴行を受けて愛器を壊されてしまったことから、アルトサックスに持ち替えます。その後、Rockdale出身の偉大なるブルース音楽家であるPee Wee Craytonと共に西海岸に進出、数多くの演奏を残しながら1959年の超名盤The Shape of Jazz to Comeの録音に至ります。その後も数多くの名盤・名演奏を残しますが、惜しくも2015年にニューヨークで亡くられています。

彼がキャリア後期に組成したPrime TimeのドラマーであったRonald Shannon JacksonもFort Worthの出身です。ぶっといサックスのサウンドでAretha Franklinの伴奏を行ったり、自らのバンドでファンを魅了してきたKing Curtisは、Ornette Colemanと同じ高校で切磋琢磨したといわれています。

ちょっと年齢は若くなりますが、King Curtisのバンドでギターを弾き、その後セッションミュージシャンとして名を成したCornell DupreeもFort Worthの出身になります。彼の参加したStuffは日本でも大変高い人気を誇ったバンドです。

フュージョンの奔りともいえるCrusadersもメンバーの多くがHoustonの出身で知られています。1974年に発表された白熱のライブを捉えた名盤Scratchでは、出身地と共にメンバーが紹介されています。これは、ライブでのMCとしては、史上最も格好の良いメンバー紹介として多くの人に愛されています。

他にも、Galveston出身の名ギタリストLarry CoryellもRockとJazzの懸け橋として多彩なギターを聞かせてくれます。

縮毛矯正で髪を失ってしまったことから自らCleanheadと名乗っていたEddie Vinsonは、BluesからJazzと多岐にわたる曲で活躍しました。Cherry Red、Kidney Stew Blues等はJump Bluesの名曲として多くのファンを未だに魅了しています。一時はバンドメンバーにJohn Coltraneを招き入れるなど多様な音楽性を持ったアーティストであったといえます。

Jazzを上手に取り入れた曲を、繊細な歌声で歌い上げるNorah Jonesの生まれはニューヨークですが、3歳の時からGrapevineに転居、そこで音楽

を始めます。実は、彼女の父親はBeatlesにも多大な影響を与えたインドの最も有名な音楽家ともいえるRavi Shankarですが、離婚後は母親と共に生活していたので、どこまでその影響があったかは不明です。彼女自身もインタビューではBilly Holiday、Bill Evansといったアメリカのジャズ音楽からの影響を多く語っています。昨年もNew Orleans Jazz & Heritage Festivalで素晴らしい演奏を聞かせてくれました。

ロック音楽

ロックの観点からは、まずは初期ロックンロールを作り上げたBuddy Holly、Lubbockの生まれになります。Buddy Hollyは多くのロックの名曲を歌い上げBeatles等に多くの影響を与えていましたが、飛行機事故で22歳という若さで命を失っています。その後も多くの音楽家が彼の曲をカバーしたり、Musical/映画で取り上げられたりと、その影響力は今もっても極めて高いといえます。

同時代のテキサス出身音楽家であり、“Oh Pretty Woman”で有名なRoy OrbisonはVernonの出身です。同名のヒット映画でも使われましたし、Van Halen、木村カエラさん等多数のカバーも存在します。彼のソングライティングパートナーであったBill Deesから、昔、私が一緒に働いていた掘削技師の友人を通して、「いきなり日本から多くの著作権料が入ってきたので調べてほしい」との問い合わせがあり、調べたら木村カエラさんのCDの売上だったという経験を思い出します。

The 13th Floor Elevatorsという知る人ぞ知るバンドが1965年にAustinで結成されます。ドラッグや東洋思想に感化されたサイケデリック・ロックを展開しますが、その音楽を世の中に出していくのに大きな役割を果たしたのが、当時Houstonで設立されたInternational Artistsというレコードレーベルでした。本レーベルは12枚しかレコード出さずに営業を終了してしまいましたが、他にもRed Crayola等、印象的な音楽家・バンドを排出しています。Red CrayolaのリーダーであったMayo ThompsonはHouston出身で、その後イギリスに渡りPost Punkの大きな礎となっていきます。

また、同年代のヒッピーカルチャーで活躍したJanis Joplinは、27歳という若さでこの世を去りましたが、ヒッピーカルチャーを象徴する破天荒さを持ちながらも強い音楽性に支えられた歴史に残る音楽家といえます。彼女はPort Arthurの出身で、Texas大学Austin校に進学しますが、ドロップアウト、カリフォルニアに渡って大成功をおさめます。

他にもZZ Top、Dixie Chicks(現在は名前を変えてChicksとして活動中)等魅力にあふれるロック音楽も多くあります。

テキサスには、良質な音楽を広め続けてきたAustin City Limits、最近ではすっかりイノベーションイベントとなってしまったSXSW等、テキサスの音楽振興に大きく影響を与えてきたイベントもあります。そして、テキサス人の音楽好き、多様な人種・文化の坩堝であるテキサスならではの音楽の進化によって、素晴らしい音楽が生み出されてきました。過去はもちろん、今後の「愛すべきテキサス音楽」の進化も楽しんでいければと思います。

最後にHoustonといえば忘れられないBeyonceについて。Destiny Childでデビュー以来グラミー賞の歴代最多受賞記録とノミネート記録を持っており、2023年時点で88回のノミネートのうち32回受賞しています。彼女がヒューストンを訪問する際、必ず立ち寄るレストランがあるとか。ミッドタウンにあるThe Breakfast Klubというソウルフードレストランで、フライドチキンが有名なのですが、いつも長蛇の列で、全く入る余地がありません。少しでも空いている＝待ち時間の短いチャンスを見つけて一度は行ってみたいものです。



Breakfast Klubで順番を待つ客

(北米三菱商事 相澤稔)

会社紹介

KPMG LLP

正団体会員代表 吉野 眞一 さん

1. 会社の業務内容等について簡単にご説明ください。

KPMGは、143か国に約26万5000人の人員を擁するグローバルファームとして監査、税務、ビジネスアドバイザーの各分野で付加価値の高いサービスをクライアントに提供しております。我々の業務は、財務諸表監査や税務申告書作成業務等の会計関連業務から、M&A支援、移転価格、企業価値評価、不正調査、ITコンサルティング、業績改善等の多岐にわたった内容となっております。

KPMGは、世界各地にて日本企業をサポートさせていただく担当者のネットワークとして、グローバル・ジャパニーズ・プラクティスを組織化し、過去50年にわたり日本企業の皆様の国際事業展開を支援させていただいております。米国では、現在約250名以上のバイリンガル・プロフェッショナルが各主要都市にて、在米日本企業のニーズに即したサービスを提供させていただいております。

2016年から4年ほどKPMGのロサンゼルス事務所にて、日本企業の皆さまの事業再編、M&A、米国市場参入などのサポートをさせていただき、2021年から拠点をニューヨーク事務所に移し、引き続き日本企業の皆さまの米国事業のサポートをさせて頂いております。今後は、在ヒューストンの日本企業の皆様のサポートもさせて頂きたいと存じます。

2. ヒューストン/テキサス州の印象についてお聞かせください。

高校時代に渡米し、20年ほどカリフォルニアに住んでおりました。ヒューストンは、ヒスパニックの文化が強くロサンゼルスにとっても似ていると

ころが多いので、すぐに好きになりました。ロサンゼルスと違うところで驚いたのは、ピックアップトラックやSUVの多さです。老若男女関係なく、大きなピックアップトラックをフリーウェイで走らせているヒューストンの方々には、西海岸にも東海岸にもないアメリカらしさがあり感動しました！

また、ヒューストンの夏の暑さには驚きました！まだヒューストンでゴルフは一度しかしておりませんが、夏にプレーをしまして、あまりの湿度と熱気に意識が遠のき、最後の3ホールほどの記憶が飛んでしまいました。

3. その他、個人的な関心事(趣味等)についてお聞かせください。

趣味の一つはゴルフをプレーすることなのですが、前職でゴルフ場の買収を100コース以上行っており、プレーをしながらもゴルフ場の価値や設備投資を勝手に算定する変な癖がついてしまいました。ぜひゴルフ好きの皆様にお付き合い頂ければ幸いです。

現在、妻と2人の娘たちはロサンゼルスに住んでおり、私は米国内での単身赴任でニューヨークをベースに活動しております。

ここ最近、ロサンゼルスの自宅に戻った時に、庭で焼き鳥を七輪で焼き、家族や友人とワイワイ食べることはまっています。焼き鳥は焼き立てをすぐに食べるのが一番美味しいと信じており、自分で焼いてそのまま食べるのが焼き立てを最速で口に運べると思って始めたのですが、焼き鳥の焼き方は奥が深く、黙々と焼くことに集中してしまいます。機会があればぜひ焼き鳥と一緒に焼きましょう！



2023年度 ヒューストン日本語補習校

入園・入学式



校長祝辞

4月8日、第52回ヒューストン日本語補習校入園・入学式が執り行われました。前日までの雨が暑さを和らげた穏やかな朝、元気な新入生の姿が補習校にありました。今年は幼稚園46名、小学部74名、中学部33名、高等部16名が補習校に入園、入学しました。

第1部では中学部・高等部の新入生が大きな拍手のなか、堂々と入場しました。そして、新入生点呼の後、来賓代表の村林総領事から「元気で希望に満ちたテキサスでの生活を充実させ、現地校と補習校生活を両立してほしい」とのお言葉を頂戴しました。また岡林校長先生からは「苦手な環境を新たな気づき、自分の変化につなげ、どんな出会いでも意味があるという気持ちを持って前向きに取り組んでほしい」との祝辞を頂きました。

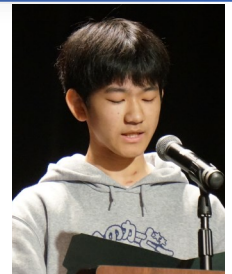
第2部では雰囲気が大きく変わり、真新しい服に身を包んだ幼稚園、小学部の新入生がかしこまった様子で入場しました。担任の先生より一人



総領事祝辞



中学部新入生挨拶



中学部在校生挨拶

一人の名前が読み上げられると、緊張しながらも大きな声で返事ができていました。「あこがれていた小学校一年生になれてうれしい、新しい友達と仲良くなりたい、運動会が楽しみ」といった希望に満ち溢れた新入生の挨拶がありました。

緊張した入学式の後に行われたクラス写真撮影では、早速新しい友達同士で仲良く話している姿を見ることができ、子供たちの積極性が感じられました。COVID-19前に戻った入学式をみて、従来当たり前できていた学校生活の大切さ、ありがたさを改めて感じました。

新入生の皆さん、保護者の皆様、入園、入学おめでとうございます。補習校と現地校での両立生活にて貴重な経験をし、国際色豊かなヒューストンにて大きく成長されることを心より祈っております。

(ヒューストン日本語補習校運営委員会)



中高等部入学式



小学部新入生挨拶



小学部在校生挨拶

駐妻のヒューストン日記

第223回 平林由華さん

2019年の4月にヒューストンに引っ越ししてきて、あっという間に丸4年が過ぎてしまいました。当初は私と夫、子供2人の4人家族でしたが、こちらで3人目を授かり家族も増え、賑やかにアメリカ生活を楽しんでいます。

以前から、旅行と食べることが大好きな我が家でしたが、ヒューストンにきてからアウトドアも大好きなことの一つに加わりました。

食生活

渡米して1年弱でコロナ禍が始まったことや、アメリカの物価の高さ、そして有難いことにお料理上手なお友達の皆様のおかげで、何でも自分たちで作ってみようというのが我が家のマインドになりました。牛タンが安く丸ごとスーパーで手に入ることは知っている方も多いと思います。皮を剥いたりスライスしたりするのは少し大変ですが、今は何でもYouTubeがやり方を教えてくれますし、日本ではタン元と呼ばれる高価な脂ののったやわらかい部位も、こちらでは比較的安価に手に入れることができます。また、日本ではスーパーにはなかなか売っていないような部位、例えばトモサンカク・ハラミ・イチボ・カイロミなども普通のスーパーで手に入れることができるのも、アメリカ、テキサスならではののかな、と思います。

コスパよく、というのも我が家の一つのテーマです。外食するとしても高いので、日本では自分たちでは挑戦しないようなメニューにもチャレンジしています。鶏肉はWhole Chickenで買うととてもお買い得なので、韓国風のスープにしてみたり、捌いて焼き鳥にしてみたりしています。そもそもアメリカでは叶えられない、日本のあのお店のが食べたい、といった思いも、ネットにある再現メニューを参考に作ってみたりしています。こちらにきて夫婦ともにお料理の腕が少しあがったような気がしてい

ます。

アウトドア

キャンプ好きのお友達に恵まれ、キャンプも我が家の趣味の一つとなりました。ヒューストンは夏が暑すぎてキャンプにはいけないため、シーズンは秋冬春と限られてしまいますが、State Parkでのキャンプを楽しんでいます。キャンプを始めたけれどどうしたらいいのか分からない、という話をたまに伺います。

まず初めはロッジやコテージでの滞在をおすすめします。State Parkではないですが、おしゃれなグランピング施設も増えています。シャワーや空調もついていて、ベッドで寝ることもでき、とても快適にアウトドアを楽しめると思います。

もし、もっと自分たちでやってみようという気持ちや、コスパよく楽しみたいという気持ちがでてきたら、テントサイトでのキャンプを考えてみてはどうかなと思います。急に宿泊を考えなくても、デイキャンプといって泊まらずに日中のみ楽しむ方法もあります。BBQを楽しんだり自転車や釣りなどのアクティビティをしたりして、1日State Parkで過ごすというものです。宿泊にはテントと寝具、ランタンが最低限必要です。テーブルや椅子、グリルはついているState Parkが多いですが、きれいか、使いやすいか、というところはあるので、もし身近にキャンプを楽しむ方がいらっしゃれば、一緒にデイキャンプにいかせてもらったり、泊まったりするとイメージがわかりやすいかなと思います。テントでの宿泊キャンプはとても疲れるのですが、夜の星空や、焚火を囲む時間、朝のすがすがしい空気の中いただくコーヒーなど、そこでしか味わえないものもたくさんあります。

残りの駐在生活も新しいことにチャレンジしながら、家族で楽しんで過ごしていきたいと思っています。



ピーカンキッズ活動報告 読み聞かせの会

ブルーボネットの花が見頃を迎えたころ、毎月恒例の読み聞かせの会を開催しました。「今回はどんなお子様がくるかな?」「季節に合わせてこの本はどうか?」スタッフ同士で話をしながら本を準備しています。

今回はこれまでで最多となる参加者をお迎えし、まずはお子様たちに人気のだるまさんシリーズの中から「だるまさん」からのスタートです。この本は幅広い年齢に人気の本で、だるまさんが出てくるだけで、みなさんニコニコ。その後は世代を超えて長年愛されている「ぐりとぐら」。そして最近暖かくなってきたのでピクニックに最適。そこでお弁当は欠かせないということで、「サンドイッチ サンドイッチ」と「おむすびくん」を読みました。

読んだのは食べ物のお話ばかりでしたが、どの本もお子様たちに大人気。お弁当箱の絵が出てくると「卵焼きがすき!」「いちごがすき!」など一人一人好きなお弁当の中身を、本のところまできて教えてくれました。

実は「おむすびくん」はスタッフにとって初めての紙芝居。現体制で読み聞かせの会が始まってまだ間もないこともあり、初挑戦と試行錯誤しながら会を重ねています。



前回からの新たな試みとして「コーヒータイム」も導入してみました。大きな本を使って数冊の本の読み聞かせをした後に、同じ部屋の一角にママたちがコーヒーを飲みながら一息つける場所、他のママたちと交流がで

きる時間を用意しています。また、ママが一人でゆっくり本を選びに行っていたことも可能です。その間にお子様たちにはスタッフと一緒に本をみたり、読んだりできるように、あらかじめ図書館から本を数冊用意しています。

この試みを始めてスタッフは、お子様が「このほん、よんで～」と持ってきたり、「このほん、もっているよ!」と得意げな顔で話してくれる姿に癒されています。

お子様たちは今まで興味の湧かなかった本でも誰かが読んでもらっているのを見て、隣にきて楽しそうに一緒に聞いてくれたり、本についてお話してくれたりしています。また、コーヒータイムのママと一緒に過ごすお子さまもいたり、思い思いに楽しんでいました。

ママたちはいかがでしょう。その場集ったママたちと楽しそうに談笑していたり、ときには真剣に情報交換しているように見受けられます。同年代の子供を持つママ同士のお話は特別ですよ。

読み聞かせの会では本と共に、みんなが笑顔になるような会を目指して成長中です。ボランティアスタッフも回数を重ねるにつれ増えて、今では5人になりパワーアップしました。お友達作りに、またはお友達と一緒に、お気軽にご参加ください。

今後の開催予定

あそぼーかい 次回、9月の開催日は未定です。詳細はヒューストン日本商工会Facebookページ、ヒューストンナビにて8月以降にご確認ください。

読み聞かせの会 6月13日(火)10:30～ ご予約はこちらから



イースターのエッグハント

日本庭園ボランティア清掃



商工会をはじめとする日本コミュニティ団体が中心のボランティアによる春の日本庭園清掃を4月8日、日米協会とハーマンパーク主催で行いました。当日の参加数は約50名、3日間ぶりに雨が上がり4月にしては肌寒い天候にも関わらず、商工会、日本人会、日米協会会員の日本コミュニティはじめ、地元の学生たちのボランティアも多く参加しました。ハーマンパーク管理団体の指導により5つの作業チームに分かれ雑草取り、落ち葉拾い、茶室の清掃、庭石の整理整頓、池周りの清掃など、即席チームで庭園のそじりはじめての方も多くいましたが、皆さん和

気あいあいと行いました。今年の5月には4年ぶりに開催が予定されているジャパンフェスティバルの前に、日本庭園もすっきりきれいになり来場者をお迎えをする準備が整いました。当フェスティバル期間中には3万人近い地元の方が参加されますが、地域の「日米友情のシンボル」日本庭園に一人でも多くの方にお立ち寄りいただくこと願っております。年に2回実施しています清掃は、次回は秋に予定していますので、皆様誘いの上、ご参加ください。
(前日本庭園・他団体対応特命理事 名川 譲)



名川譲 前特命理事 ヒューストンの名誉市民と親善大使の称号を授与される

名川譲前特命理事(ANA)は、ヒューストン市長ターナー氏により名誉市民及び親善大使の称号を授与され、4月13日午後City HallにてChief Development Officerであるアンディ・イーケン氏から市長証書が手渡されました。

名川氏は、2015年6月のANA成田～ヒューストン便就航新規開設に向け支店長として当地へ同年3月に赴任され、商工会で8年に亘り他団体対応・日本庭園担当の特命理事を務め、今年3月末をもってANA東京本社渉外調査部(国際渉外担当)へ異動されました。

ヒューストン赴任中は、日米協会の副会長やJapanese Garden Advisory Committeeの議長、Hermann Park Conservancyの理事、グレーターヒューストン日本人会の副会長兼・執行委員、オースティン日米協会の理事も兼務されました。2018と2019年にはジャパンフェスティバル共同実行委員長を務められ、コロナ禍の2020年12月にはヒューストン市長のオンラインによる日米交流を実施され、2022年10月には市長とGreater Houston Partnershipが率いる訪日投資&貿易ミッションに尽力されるなどヒューストンと日本の交流促進に貢献されました。

今回の称号授与は商工会や日本人コミュニティにとっても大変有意義で名誉なことであり、名川氏の功績と栄誉を共に称えつつ、益々のご活躍を祈念します。
(編集部)



▲左:名川 譲 前特命理事
右:アンディ・イーケン氏
(Chief Development Officer,
City of Houston)
▼市長証書



▲横断幕を掲げてお見送りするANAの従業員の皆さん



令和4年度(2022-2023)4月 商工会常任委員会議事録

日時:2023年4月15日(水)12:00
会場:United Way of Greater Houston CRC
出席者:37名
欠席者:83名

***会員消息**
本日現在の会員数は、名誉会員数10名、正個人会員数792名、(正団体会員数113社)、準会員数48名で、総会員数は850名となった。また、3月末付で正団体会員Metton America Inc.とMitsubishi Chemical America, Inc.が退会となった。

議事録と会員消息の詳細は、商工会HP「[会員専用ページ](#)」を参照。



ワン!モア ヒューストン

Vol. 5 テキサスでは犬イベントもBIG!

川原志津香(家庭犬しつけインストラクター)

ヒューストンでは、毎年7月に”World Series of Dog Show”という大規模な犬のイベントが開催されています。NRG Centerで行われるこのイベントの中核となるのは、純血犬種の品評会であるドッグ・ショーです。純血犬種には外観、サイズ、毛色、毛の長さ、気質等について犬種スタンダードと呼ばれる基準が定められていますが、ドッグ・ショーは、この犬種スタンダードに最も近い犬を選んで表彰するものです。犬が好きの人にとっては、珍しい犬種に出会えたり、様々な犬がショー・リンクの中で1頭1頭審査を受け、歩く様子を披露するのを眺めたりするのは楽しいものです。

”World Series of Dog Show”はドッグ・ショーに出陣する人だけのものではありません。一般の来場者にとっても犬に関係する情報が得られ、楽しいイベントに参加できる場所でもあります。ドッグ・ショーのリンクの横には、犬用品を販売しているブースや、新しい飼い主を探している犬のためのレスキュー団体のブースがいくつも並んでいます。また、その奥にはドッグ・ダンス(Canine musical freestyle音楽に合わせて犬と踊る競技)やケーナイン・frisbee(Canine Frisbee人が投げるfrisbeeを軽快に

キャッチする競技)のデモンストレーションの会場があります。ハードルを飛び越えた先にあるテニスボールを取って戻り、同じチームの次の犬にリレーするというフライボール(Flyball)競技も開催されています。干し草の中に隠されたネズミの入った箱を見つけるバーン・ハント(Barn hunt)は、自分の犬でチャレンジしてみたい人が行列するほど人気のイベントです。憧れの犬種と触れ合うことができるミート・ザ・ブリード(Meet the breed)も子供達に大人気です。

2023年の会期は、7月19日(水)から23日(日)と発表されています。初日は来場者も少なく比較的空いているのですが、イベントもあまりありません。盛り上がるのは、やはり金、土、日曜日の3日間です。入場料、会場の地図やスケジュールの詳細は、日にちが近づくとうェブサイトで確認することができます。パンデミックのために2020年、2021年は例年のように開催されなかったようですが、2022年からほぼ以前の規模で復活し、昨年は多くの来場者が訪れていました。Everything is bigger in Texas(テキサスでは全てが大きい)とよく言われる通り、この犬イベントもとにかく見応えのある大規模なものです。ご興味のある方は是非一度足を運んでみてください!



▲躍動感あふれる フライボール競技



▲ショー・リンクの中で審査員(ジャッジ)の評価を受けます



▲珍しい犬種のグッズも手に入ります



▲多くの保護団体が里親募集中の犬を紹介しています

Houston Walker

■ May 19 - 20

STRAVINSKY OEDIPUS REX Houston Symphony @ Jones Hall

バレエ音楽で知られるストラヴィンスキー傑作「オイデプス王」を、インスタレーションと映像プロジェクションとともにオペラスタイルで楽しめる公演となっています。

■ May 21~Sep. 17

Impressionist and Post-Impressionist Masterpieces from the Pearlman Foundation @ The Museum of Fine Arts, Houston

セザンヌやゴーッガン、そしてヴァン・ゴッホやモディリアーニに至るまでの、印象派とポスト印象派による傑作が集結した特別展。NYパールマン財団の所蔵作品とともに、印象派の画家たちがどのようにパリで交流し、互いに影響を受けたか、コンテキストとともに紹介します。

■ May 26~Sep. 4

Sharks! The Meg, The Monsters, & The Myths @ The Houston Museum of Natural Science

実は恐竜より歴史は古いというサメ。映画のイメージとは裏腹に3分の1が絶滅危惧にさらされているという実態をご存じですか? サメの化石から、7千ガロンの水槽に生きたサメまで展示されるこの特別展、卓越したハンティング能力、サメのミステリーについて学んでみま

せんか。夏休みの自由研究にも役立ちそう。

■ May 31 - July 2

Wicked @ Hobby Center

お馴染みブロードウェイミュージカルの「Wicked」が上演されます。オズの魔法使いの知られざるストーリーを描いたこの演目。ドロシーがオズの国にやってくるずっと前の、緑色の肌をした女性の物語です。この機会にぜひ。

■ June 1, 2, 3, 4

Houston Astros vs L.A. Angels @ Minute Maid Park

アストロズを応援するか、エンゼルスを応援するか、悩ましい?! 先発メンバーは数日前に確認できます。

■ June 8 - 18

SWAN LAKE @ Wortham Theater

ヒューストンバレエ団による「白鳥の湖」公演。日本人ダンサーの活躍が名作で見られるのは嬉しいですね。

■ June 17 & 18

Tokyo X @ NRG Center

日本人シェフによるこだわりの日本食やコスプレショー、メイドカフェなど日本の現代文化を楽しむ祭典。

内容は記事執筆時点の情報に基づいています。変更になる場合もありますので、お出かけ前に各自で最新の情報を主催者サイト等でご確認ください。

編集後記

日本はそろそろ梅雨入りの季節ですが、ヒューストンは夏の本番を迎えたように感じます。暑さがより一層増してきておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか?

学校帰りの子供たちは、公園のスプラッシュパッドやコミュニティプール、アパート併設のプールで毎日水遊びを楽しんでいます。思い返せば3月頃から暖かい日はプールに入ることができ、ヒューストンの夏が長いことを改めて感じました。この長い夏を、家族みんなで健康に乗りきることが我が家の目標です。

というのも、ヒューストンの最初の夏の印象は、屋外は驚くほど暑くても屋内は凍えるほど寒いというものでした。外の気温に合わせて衣服を選び、屋内施設の中で後悔した経験が何度もあります。朝夜だけでなく屋内外での寒暖差にも要注意です。

さて、6月~8月は学校の夏休みになり、一時帰国される方も多いのではないかと思います。3月13日以降、日本でもマスクの着用が個人の判断に任せられております。何も隠すものがない笑顔を久しぶりに見ることができると思うと嬉しく感じます。また、このタイミングで旅行に出られる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。皆様、どうぞ道中お気をつけてください。そして、長い夏を健康に存分に楽しみましょう。

(編集委員 大野麻衣)

ガルフストリームは毎月15日発行です。

編集委員および投稿募集中!

問い合わせ先: sansuikai@jbahouston.org

ガルフストリームは、ホームページでも閲覧可能です。

<https://www.jbahoustongulfstream.com/>

発行: ヒューストン日本商工会

発行責任者: 早坂 晃

編集委員長: 稲田徳弘

構成・編集: ガルフストリーム編集委員一同